



2016年9月 No.2

できたしこルーテル2

日本福音ルーテル教会九州教区熊本地震救援対策本部ニュース

ルーテル教会の被災者支援は、あらたに被災障がい者支援の取り組みへ

■これまでの支援活動

ルーテル教会による熊本地震の被災者支援は、新しいステージを迎えています。これまで、4月14日と16日の大地震以降、福岡の教区事務所に設置された対策本部は、「できたしこルーテル」の名のもとに、熊本、鹿嶋の諸教会・施設と協力しながら、①各教会や諸施設に対する物資配布などの直接支援。②広安愛児園・こどもL.E.C.センターに設置された公的避難所の運営と、同避難所の避難者さんたちに対する生活支援。そして6月まで同避難所が解消して以降は、③同避難所から移られた避難者さんや教会関係の方々への生活支援および、益城町広崎地区の町内会長さんらと連携をとりながら、同地区でのがれき処理・引っ越し支援などを活動の中心としてきました。これらの活動のため、NPO 法人わかちあいプロジェクトとの協力のもとに、神水教会会員の牧野孝司兄が専従ボランティアとなり、福岡地区等の牧師先生方とチームを組んで、暑い夏の熊本で貴重な汗を流してきて下さったのでした。

■支援の力を、より必要な方々に！

全国の方々の大きなお支えにより、被災地の状況は少しずつ変化していきます。けれども、被害の少なかった方、自力で生活を再建できる方々が、さまざまな支援を得ながら生活を建て直していかれる中で、より被害が大きかった方々や、自力で生活再建の難しい方々が、地域の中で埋没し、取

り残されそうになっていく、という事態が生まれてきています。ルーテル教会の被災者支援は、「災害弱者」とも呼ばれる、こうしたより助けを必要としている方々にこそ届けられなければならない。そのように考え、「できたしこルーテル」は、新しい取り組みを始めることにしました。それが、「被災地障害者センター熊本」の支援活動に協力していく、という働きです。

■被災地で取り残される障がい者

震災直後から、障がいのある方々の生活には厳しいものがありました。ほとんどの避難所や仮設住宅には、障がい者が生活できる設備や環境が整っていないため、いまだに倒壊しかかった自宅で、危険とともに生活せざるを得ない方々も少なくありません。こうした中、全国のさまざまな障害者団体により構成されているJDF(日本障害フォーラム)の現地センターとして、「被災地障害者センターくまもと」が設立され、県内外の障害者団体の支援を得ながら支援活動をスタートさせました。センターでは、障がい者を対象とした専門的で丁寧なボランティアの活動に取り組んできましたが、連日、相談や応援要請の電話がとぎれることなく鳴り続ける事態となり、長期で継続的に支援に入ることができるボランティアの確保が喫緊の課題となっていたのでした。なにより、これまでなんとか自立生活をしたり、ご家族の支えによって生活してこられた障がい者の方々が、地域で取り残され、孤立し、S.O.Sを発しながら助けを待っておられるという哀しい現実と直面し、わたしたちは、ここにこそ直接的な支援の手が必要である、と考えたのでした。

■被災地障害者センターくまもと

そこで、できたしこルーテルでは、同センターと相談しつつ、その働きへの協力のあり方を検討し、できたしこルーテルとしての専従ボランティアをたてて、その方を



センターは熊本市から益城町への移転を計画中

同センターに派遣することをもって、被災障がい者の支援に取り組むことを決めたのです。ただし、同センターのボランティアには、センターの働きの特殊性から、障害者支援の経験者もしくは障がい者家族という条件が付されています。祈りつつ人選にあたった結果、不安定な雇用条件であるにもかかわらず、健軍教会避難所の避難者さんであった、大山直美さんという方が、この大切な役割を引き受けてくださることになりました。

■新しい協力関係によって

これまで、できたしこルーテルでは、NPO 法人わかちあいプロジェクトとの協力のもとに、益城町を中心とした被災者支援に取り組んでまいりましたが、被災地の状況の変化に伴い、これからは被災地障害者センターくまもとへの専従ボランティアの派遣を、その活動の中心としていくことになります。もちろん、これまでの働きを支えてきた対策本部のチームも、できるかぎりセンターと大山さんの働きに協力していきますし、ルーテル教会の障がい者施設からの、センターへのボランティア派遣なども視野におきながら、これからの働きをさらに検討していきたいと思っています。9月に入り、すでにセンターでの大山さんの働きはスタートしています。次号で、大山さんの働きについてレポートしてまいりたいと思います。全国のみなさまの注目とお祈りを、お願いいたします。[小泉 記]



9月 倒壊家屋がそのまま残る益城町にて

教会短信

神水教会—8月に洗足学園音大の熊本出身学生の方々によるチャリティコンサートが行われ百数十名の来場。子供からお年寄りの方々まで皆で楽しみました。
熊本教会—8月末臨時総会をし、会堂・牧師館の修復工事中への決議を行いました。大事な熊本教会を守りその修理募金を集めていくための決意も含めて。
健軍教会—5月末に自主避難所解消。7月初めまで近所の小学校で炊き出しを続けました。7/23.24には映画「うつくしいひと」チャリティー上映会を開催。
松橋教会—皆さまからの支援募金のおかげで震災時に壊れたエアコンの取り付けが完了しました。暑が続く9月を快適に過ごせます。感謝。
甲佐教会—屋根瓦が落下。約60万円の被害でしたが、みなさまからの建物支援募金で修理の目処が立ちました。感謝です。

■一次募金 地域生活支援 4,327,000 円 教会建物支援 18,103,000 円 感謝でした。現在建物支援の配分作業中。まもなく始まる二次募金もよろしくお祈り致します。